

教育シンポジウム

5. 第65回学術講演会における教育シンポジウムでの総合討論を終えて

岩田卓士 岩西利親

近畿大学医学部 5学年代表

私達は、今回の教育シンポジウムに五年生代表として参加させていただきました。各科の先生方のクリニカルクラークシップの教育方針、現在の問題点、今後への指針といった様々な討論を見せていただくことができ、現在の私達の実習は大勢の先生方によって支えられ、進歩していることを改めて感じさせてもらいました。

周知のこととは存じますが、クリニカルクラークシップという、ほぼ一年を臨床の場で過ごす実習は学生にとって初めてのことであり大半の学生は、まず何をしたらいいのか、何をしてはいけないのか、座学との兼ね合いはどうしていけばいいのか、といったことで戸惑っていました。クリニカルクラークシップは学生の参加型実習という方式ですが、実際どの程度まで参加が許されているのか分からず、結局ただの見学ということに終わってしまうこともありました。学生が実際に手技を行うには、もちろん難しいこともあります。しかし、より参加型の実習を行うためには時間をかけて前述の疑問に

説明していただけると学生にとって実習に入って行きやすい物になると考えております。

その他の事としましては、総合討論でも述べさせていただきましたが、内科で実習することが出来ない科をどうするかという事です。このテーマは来年度から、システムの変更に伴い良い方向に解決されることが決まりました。来年の実際の間を見て、より良い形になることを望んでいます。

最後になりましたが、現在クリニカルクラークシップが国家試験でも重視されてきています。実際、年々臨床の場を想定した問題も多くなってきているように感じます。今回、海外実習を行われた上榊さんが講演で言われたように、症候から鑑別疾患をあげて、問診や検査を経て診断へと至る流れを考え、このクリニカルクラークシップからより多くを学ぶことが出来るとよいと考えます。年々、より良い方向に進めるように学生も考え努力して行きたいと思っております。今回このような場を設けていただいたことに学生を代表として感謝の意を申し上げます。